子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：

Prenatal occupational disinfectant exposure and childhood allergies: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル：

妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤使用と生まれた子どもの 3 歳時のアレルギー疾患との関連について

ユニットセンター（UC）等名：甲信ユニットセンター

サブユニットセンター（SUC）名：甲信ユニットセンター（山梨大学）

発表雑誌名：Occupational and Environmental Medicine

年： 2022 DOI：10.1136/oemed-2021-108034

筆頭著者名：小島 令嗣

所属 UC 名：甲信ユニットセンター

目的：

医療用消毒殺菌剤は医療現場で広く使用され、稀に職業性の気管支喘息を引き起こすことが報告されているが妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤使用と生まれた子どものアレルギー疾患発症との関連は検討されていない。妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤の使用状況と生まれた子どもの 3 歳時のアレルギー疾患発症との関連を解析した。

方法：

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）に参加した 78,915 人の妊婦のデータ及び生まれた子どもの 3 歳時のデータを用いて解析した。妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤使用と、生まれた子どもの 3 歳時のアレルギー疾患発症（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）との関連について、多変量ロジスティック解析を用いて解析した。

結果：

仕事で医療用消毒殺菌剤を毎日使用していた妊婦から生まれた子どもは、使用していない妊婦から生まれた子どもと比べて、3 歳時に気管支喘息やアトピー性皮膚炎になる割合が高いことが明らかになった。一方、妊婦の仕事での医療用消毒殺菌剤の使用と、生まれた子どもの 3 歳時の食物アレルギー発症との関連は認められなかった。また、妊婦の仕事での医療用消毒殺菌剤の使用頻度が上がるほど、生まれた子どもが3歳時に気管支喘息やアトピー性皮膚炎を発症する可能性が高まる傾向にあった。

考察（研究の限界を含める）：

本研究は、妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤の使用が、生まれた子どもの気管支喘息やアトピー性皮膚炎の発症につながる可能性があることを示す、世界で初めての研究である。本研究では、妊婦の仕事での医療用消毒殺菌剤の使用状況については、自記式の質問票で尋ねており、必ずしも実際の医療用消毒殺菌剤のばく露状況を反映しているとは限らないこと、また、生まれた子どもが 3 歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患を質問票で確認したが、保護者による申告であり、医療機関に照会をしていないこと、等が本研究の限界として挙げられる。今後はさらに詳細な医療用消毒殺菌剤の使用状況を含めた研究が望まれる。

結論：

妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤の使用状況と、生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患発症との関連を解析した結果、医療用消毒殺菌剤を仕事で毎日使用していた妊婦から生まれた子どもは、使用していない妊婦から生まれた子どもと比べて、3 歳時に気管支喘息やアトピー性皮膚炎になる割合が高いことが明らかになった。